

サービス貿易と GATS 体制

中本 悟
(大阪市立大学)

(報告概要)

はじめに

第1節 二つのサービス経済化とサービス貿易の拡大

第2節 ウルグアイ・ラウンドと GATS (サービス貿易に関する一般協定)

第3節 GATS におけるサービス貿易

第4節 GATS によるサービス貿易自由化

小括

現代世界経済では、輸送サービスや旅客サービス、通信サービス、旅行・観光業などの伝統的なサービス貿易だけではなく、金融・保険サービス、コンピュータ・情報関連サービス、教育サービス、流通サービス、などの新しいサービス貿易が増加している。またホテル、飲食店、小売業、金融業など、サービス業の多国籍企業展開やサービス業の国際的 M&A が進んでいる。

このようなサービス貿易・投資の発展に伴って、サービス貿易の自由化が国際通商体制の課題となったのは 1980 年代のことであった。財の国際貿易の自由化は 1947 年に発効した GATT(関税と貿易に関する一般協定)とその後数回にわたる GATT ラウンド交渉によって、段階的に進展してきた。しかしサービス貿易の自由化は、1995 年に発効した GATS (サービス貿易に関する一般協定)によってようやく自由化の枠組みができたに過ぎない。その進展は、今後の多国籍間交渉に委ねられている。

本報告では、サービス貿易およびサービス貿易自由化の特質を、財貿易のそれとの比較に留意しながら検討する。まず第 1 節では、サービス経済化とサービス貿易の発展をトレースするとともにサービス貿易の特質について検討する。サービス貿易の自由化は 1986 年から始まった GATT のウルグアイ・ラウンドの重要な議題として設定された。そこで第 2 節では、サービス貿易自由化が国際通商体制の重要課題となるに至った背景とそこでの主要論点を確認する。ウルグアイ・ラウンドは 1993 年に 117 カ国で実質的な妥結に達した。そして 1994 年 4 月 15 日にモロッコのマラケッシュにおいて、「WTO を設立するマラケッシュ協定」が 127 カ国によって採択された。この WTO 協定の付属書として、サービス貿易の自由化のルールを決めた GATS (General Agreement on Trade in Services: サービス貿易に関する一般協定) が成立した。第 3 節では、GATS が対象とするサービス貿易の形態を検討する。本節では、GATS がサービス貿易の独自な性格のために、GATT (関税と貿易に関する一般協定) にはない貿易形態を自由化の対象としていることが明らかとなろう。第 4 節では、GATS におけるサービス貿易自由化のための独自な手続きについて検討する。

(以上)